

A 「ば」の直前の活用形

- (1) 散ら（ラ行四段動詞「散る」の未然形）
- (2) 散れ（ラ行四段動詞「散る」の已然形）
- (3) 開くれ（カ行下二段動詞「開く」の已然形）
- (4) 過ぎ（ガ行上二段動詞「過ぐ」の未然形）
- (5) あら（ラ行変格活用「あり」の未然形）
- (6) しか（過去の助動詞「き」の已然形）
- (7) 見れ（マ行上一段動詞「見る」の已然形）

B 仮定条件か確定条件か

- (8) ①③⑤⑦ / いずれも直前が未然形
- (9) ②④⑥⑧ / いずれも直前が已然形
- (10) ⑪＝仮定条件（未然形「過ぎ」）／⑫＝確定条件（已然形「過ぐれ」）／★上二段は未然「過ぎ」・已然「過ぐれ」で形がはっきりちがう

(11) 「それなら・それでは」／さら（ラ変動詞「さり」の未然形）／未然形+ば＝仮定条件

C 確定条件の三つの意味

- (12) 原因・理由（風が吹く**ので**）
- (13) 偶然（門を開けると、たまたま人がいた）
- (14) 恒時（春が来る**ときはいつも**）
- (15) 原因・理由（命がある**ので**）

D 口語訳

- (16) もし花が散ったなら、また来よう。
- (17) 花が散ったので、春も終わってしまった。
- (18) 門を開けると、人がいた。
- (19) 春が来ると、いつも花が咲く。
- (20) もし風が吹いたなら、波が立つだろう。
- (21) もし雨が降ったなら、行くまい。

E 記述と応用（解答例）

(22) これは接続助詞の「ば」ではない。格助詞「を」＋係助詞「は」が濁って「をば」となったもので、「山を（は）越えた」の意味。直前が活用語でないことが手がかりになる。／★引っかけ。直前が「山」（名詞）なので接続助詞の「ば」ではありえない

(23) 「ば」は未然形に付くと「まだ起きていないこと」を仮定し（もし～なら）、已然形に付くと「すでに起きていること」を受ける（～ので・～すると）から。つまり直前の活用形が意味を決めている。

(24) ①「ば」の直前が活用語かどうかを見る（名詞なら「をば」などの別物）。②活用語なら、未然形か已然形かを見る。③未然形なら仮定、已然形なら確定。④確定なら、原因・偶然・恒時のどれかを訳で決める。

F まとめ

(25) 順接の仮定条件（もし～なら）

(26) ①原因・理由（～ので）②偶然（～すると）③恒時（～するときはいつも）

(27) ア段なら未然形（散ら・吹か・降ら）、エ段なら已然形（散れ・吹け・降れ）

【現代語訳】

①もし花が散ったなら、また来よう。／②花が散ったので、春も終わってしまった。／③もし風が吹いたなら、波が立つだろう。／④風が吹くので、波が立ったのだった。／⑤もし命があったなら、また会おう。／⑥命があるので、つらいことも多い。／⑦もし雨が降ったなら、行くまい。／⑧雨が降るので、道も悪い。／⑨門を開けると、人がいた。／⑩春が来ると、いつも花が咲く。／⑪もし（時が）過ぎてしまったなら、くやしいだろう。／⑫（時が）過ぎるので、跡形もない。／⑬都を出たので、日数がたってしまった。／⑭見ると、蜚であった。／⑮それなら、参上しよう。／⑯山を越えた。